

報ニーズに関する多くの調査である。
わが国においては、今回のような調査をさらに積み重ねつつ、EBMのための

データベース構築や提供利用を図っていくことが必要である。

参考文献

- 1) Zipser J. MEDLINE to PubMed and beyond. Presented at the Health Sciences Library Association of New Jersey and New York-New Jersey Chapter of MLA Joint Meeting, Princeton, NJ, December 8, 1999. (Available from <http://www.nlm.nih.gov/bsd/historypresentation.html>)
- 2) Williamson JW, German PS, Weiss R, Skinner EA, Bowes F 3rd. Health science information management and continuing education of physicians. A survey of U.S. primary care practitioners and their opinion leaders. *Ann Intern Med.* 1989 Jan 1;110(2):151-60.
- 3) Hunt RE, Newman RG. Medical knowledge overload: a disturbing trend for physicians. *Health Care Manage Rev.* 1997 Winter;22(1):70-5.
- 4) Gorman PN, Helfand M. Information seeking in primary care: how physicians choose which clinical questions to pursue and which to leave unanswered. *Med Decis Making.* 1995 Apr-Jun;15(2):113-9.
- 5) Covell DG, Uman GC, Manning PR. Information needs in office practice: are they being met? *Ann Intern Med.* 1985 Oct;103(4):596-9.
- 6) Weinberg AD, Ullian L, Richards WD, Cooper P. Informal advice- and information-seeking between physicians. *J Med Educ.* 1981 Mar;56(3):174-80.
- 7) Florance V, Giuse NB, Ketchell D S. Information in context: integrating information specialists into practice settings. *J Med Libr Asso*c. 2002 Jan;90(1):49-58.
- 8) Watson JA, Weist A. The Forest Healthcare Clinical Support Library: 6 months on. *Health Libr Rev.* 2000 Dec;17(4):219-21.
- 9) 山口直比古, 阿部信一, 諏訪部直子, 平吹佳代子, 真下美津子, 牛沢典子. 日本における臨床医に対する情報サービスの現状. In : 丹後俊郎. 平成11年度厚生科学研究費補助金特別研究事業報告書「21世紀の保健・医療・福祉分野におけるEBMによる新しい情報提供機能の確立のための調査研究」, 2000 : 51-65.
- 10) 丹後俊郎, 磯野威, 泉峰子, 柳律子. 公衆衛生従事者における情報サービスの現状. In : 丹後俊郎. 平成11年度厚生科学研究費補助金特別研究事業報告書「21世紀の保健・医療・福祉分野におけるEBMによる新しい情報提供機能の確立のための調査研究」, 2000 : 67-72.
- 11) 裏田和夫, 阿部信一. わが国の臨床医の情報ニーズに関するケーススタディ. In : 丹後俊郎. 平成13年度厚生科学研究費補助金特別研究事業報告書「日本におけるEBMのためのデータベース構築および提供利用に関する調査研究」, 2002 : 43-46.
- 12) Smith R. What clinical information do doctors need? *Br Med J.* 1996 ; 313 : 1062-1068.
- 13) 裏田和夫. 臨床医の情報ニーズと医学図書館員の役割. In : 丹後俊郎. 平成12年度厚生科学研究費補助金特別研究事業報告書「日本におけるEBMのためのデータベース構築および提供利用に関する調査研究」, 2002 : 5-18.
- 14) Gorman P. Information Needs in Primary Care: A Survey of Rural and Nonrural Primary Care Physicians. *MEDINFO 2001* ; 10(Pt 1) : 338-342.
- 15) Gorman PN, Ash J, Wykoff L. Can primary care physicians' question

- s be answered using the medical journal literature? Bull Med Libr Assoc. 1994 Apr;82(2):140-6.
- 16)Rasch RF, Cogdill KW. Nurse practitioners' information needs and information seeking: implications for practice and education. Holist Nurs Pract. 1999 Jul;13(4):90-7.
- 17)McKnight L, Stetson PD, Bakken S, Curran C, Cimino JJ. Perceived information needs and communication difficulties of inpatient physicians and nurses. Proc AMIA Symp. 2001;:453-7.
- 18)Dorsch JL. Information needs of rural health professionals: a review of the literature. Bull Med Libr Assoc 2000 ; 88(4) : 346-354.

厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業） 分担研究報告書

4. 出版タイプからみた生命倫理文献の分析

分担研究者 山崎茂明 愛知淑徳大学文学部図書館情報学科

1、はじめに

現在、インターネット経由で、PubMed を通して世界の医学文献を検索するスタイルは、医学研究や臨床において定着した。1997 年、ゴア副大統領により、一般の人々 (public) のための Medline として PubMed が発表された。質の高い医学医療情報の提供により、人々の健康の向上、医療費の抑制を目指したものである。その後、一般の人々からのリクエストに応えるためにも、伝統医学雑誌やポピュラー医学雑誌を収録対象に加えた。そして、2001 年に、それまで独立して刊行されていた Bioethicsline、Histline、Aidsline などが PubMed に統合され、さらに米国航空宇宙局 (NASA) との協力で宇宙生命科学関連の文献レコードも統合された。こうして、医学・生命科学の関連領域を広くカバーするデータベースになった。最近 1 年間の利用は、4 億件という膨大な量にまでなろうとしている。PubMed には、現在 1200 万件におよぶ文献レコードが、1960 年代から今日まで蓄積されている。

本稿の目的は、この PubMed に収載された生命倫理文献を対象にして、出版タイプをキーとして分析することである。これまで独立した生命倫理文献データベースとして Bioethicsline が製作されてきたが、PubMed に統合されサブセット「Bioethics」として

蓄積されている。全体の文献数変化、出版タイプ別の変化、主要雑誌（情報源）の識別を通して、生命倫理文献の特性を明らかにしたい。

2、背景

1) 生命倫理研究の意義

人が生きていいくうえで倫理が存在しているが、社会の変化、とくに科学技術の発展にともない、変化が要請される。また、新しい技術の出現にあたりそれまでの既成の倫理観が問い合わせられる。倫理は不变な部分もある一方で、時代や文化、価値観の変化を受けて変わるものである。医学や生命科学の領域において、近年のクローリン技術のインパクトはもちろんあるが、さらに不妊治療、脳死と心臓移植、安樂死、臨床試験など、倫理がつねに問題となり、どのように考えるべきか、問われてきたといえよう。生命倫理は、1960 年代後半から医学や生命科学研究の世界だけでなく、ニュースメディアでも広く検討されるようになった。直接の契機となったものは、1967 年に南アフリカの外科医バーナード博士 (C. Barnard) による心臓移植の試みであろう。生命倫理の主題は、医学文献だけでなく、宗教、倫理、歴史学、法学、心理学、社会学など人文・社会科学領域に広く分散しており、さらに学術文献だけでなく一般図書、新聞、ポピュラー雑誌、法令などにも掲載さ

れている。データベース製作にあたっては、主題領域を越えた幅広い分野を横断しているだけに、スクリーニング作業など、組織的に行われる必要がある。

2) ケネディ記念倫理研究所図書館

ケネディ記念倫理研究所（Kennedy Institute of Ethics）は、1971年にワシントンのジョージタウン大学に設立され、生命科学をはじめさまざまな主題領域を倫理の視点から展望し、教育活動と研究活動のセンターとして機能できるよう設立された。1973年に研究所は世界の倫理分野をカバーした小規模であるが優れた図書館を設立し、米国国立医学図書館（NLM）からの財政支援も受け、1985年には国立生命倫理文献センター（National Reference Center for Bioethics Literature）としての役割も担うことになった¹⁾。

1978年にNLMとの契約により、生命倫理データベースであるBioethicslineがNLMデータベースのひとつとして製作されるようになった。生命倫理を含め、倫理文献全般を広く収集し組織化してきた実績をもとに、Bioethicslineの製作を行ったのである。図書館で所蔵している単行本は2万1千冊、購入雑誌・新聞は300種というように、規模はけっして大きくはないが、その収集範囲は視聴覚資料、手紙、メモ、報告記録などにも及んでいる。

3) Bioethicsline の発生

1974年 Bioethics Information Retrieval Project が、BIOETHICS データベースを作成し、印刷体の Bibliography of Bioethics を刊行するためにジョージタウ

ン大学のケネディ記念倫理研究所図書館ではじまった。このプロジェクトが始まったのは、1973年のケネディ記念倫理研究所図書館設立の翌年にあたる。1975年にGale Research社から、Bibliography of Bioethics がオンラインデータベースに先立って刊行された。1978年、このBIOETHICS データベースは NLM のオンラインシステム（MEDLARS）に取り入れられ、Bioethicsline と呼ばれるようになった。当初、このデータベースのレコード数は7000件、毎年1800から2000件が増加していた。このBioethics Information Retrieval Project では、自然科学領域を越え、さらに学術文献以外の資料をもモニタリングし関連文献情報を収集し、適切な独自のキーワードを付与することが、生命倫理データベースの成功のポイントであるとしていた²⁾。

こうして、2001年にBioethicslineは、PubMedにマージされ、独立して刊行されていた時よりも、はるかに広範な利用を得られるようになった。なお、文献スクリーニングなどの製作業務は、これまで通りケネディ記念倫理研究所図書館により行われている。

3、対象と方法

調査は2002年12月20日に行った。PubMedのサブセットである「Bioethics」により生命倫理文献を特定し、それらの出版年別変化、そして出版タイプ（Publication Type）ごとの分析を行い、さらに出版タイプ別文献の主要誌の識別を行った。年次変化の分析対象にした文献レコードは、ProCiteを用いて、出版タイプ別

表1 PubMedに占めるBioethics文献シェア

Year	Bioethics(A)	PubMed(B)	A/B
1965	234	99929	0.2%
1966	552	174518	0.3%
1967	751	186539	0.4%
1968	1090	203870	0.5%
1969	1070	211159	0.5%
1970	1203	213268	0.6%
1971	1264	218662	0.6%
1972	1366	222871	0.6%
1973	2231	226657	1.0%
1974	2427	230036	1.1%
1975	2672	244229	1.1%
1976	2590	248884	1.0%
1977	3141	255528	1.2%
1978	3668	265259	1.4%
1979	3621	273991	1.3%
1980	3614	272321	1.3%
1981	3264	274281	1.2%
1982	3283	285172	1.2%
1983	3612	299010	1.2%
1984	3789	307895	1.2%
1985	4091	319636	1.3%
1986	4361	332180	1.3%
1987	4700	349577	1.3%
1988	5373	367174	1.5%
1989	6175	382612	1.6%
1990	6656	389973	1.7%
1991	7493	391367	1.9%
1992	8109	394002	2.1%
1993	8730	402228	2.2%
1994	9164	411740	2.2%
1995	9059	422616	2.1%
1996	9608	431991	2.2%
1997	10478	436033	2.4%
1998	10498	453653	2.3%
1999	10557	468120	2.3%
2000	10723	504014	2.1%
2001	11333	511322	2.2%
2002	8306	482580	1.7%
Total	190856	12164897	1.6%

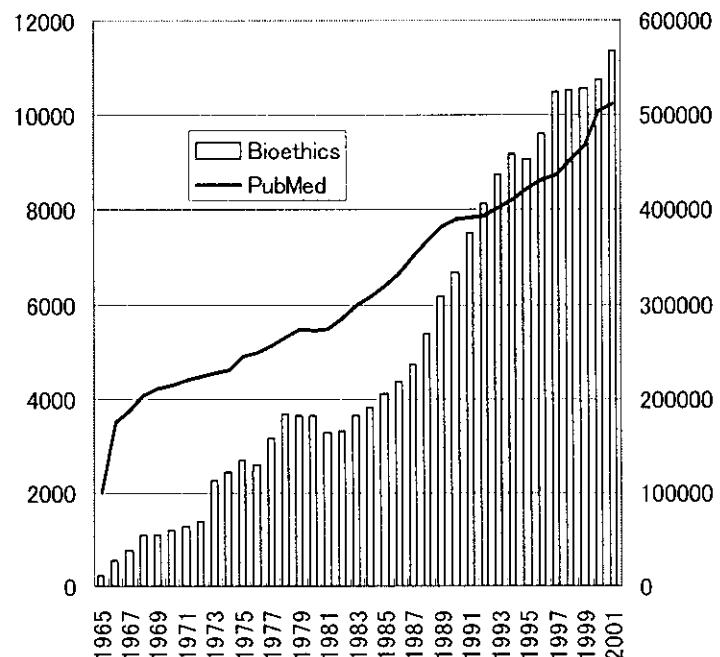


図1 PubMedとBioethicsの文献数変化

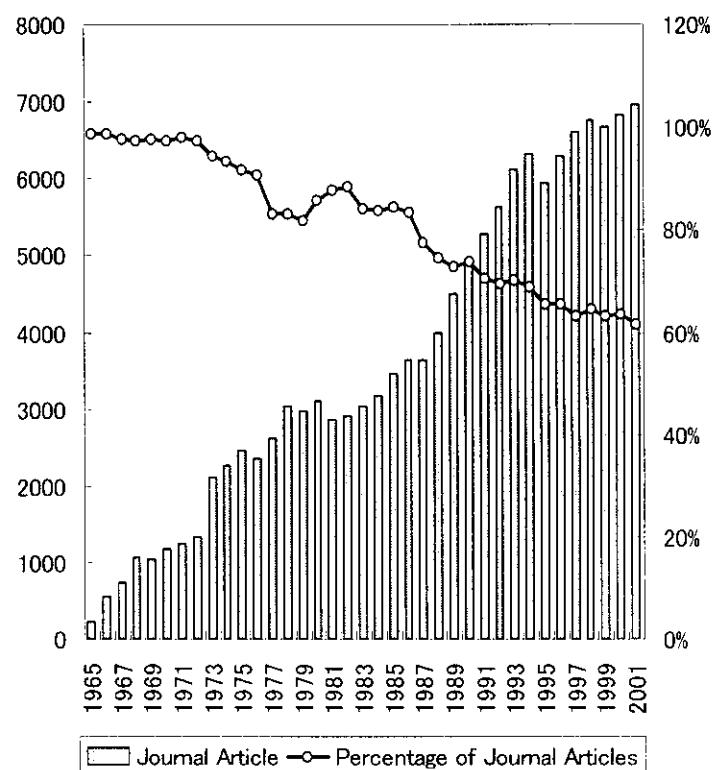


図2 Journal Article文献PubMedに占めるシェアと文献数変化

にダウンロードした。分析対象としては、2002年分は除外した。これは、調査時点が2002年12月であり、2002年分がまだすべてPubMedに収録されていないからである。

調査対象文献数データを示すと以下のようになる（付表参照）。

1965年－2002年：PubMed文献数、12,164,897

1965年－2002年：Bioethics文献数、190,856

Journal Article: 139,031

Review: 13,078

Letter: 15,280

Editorial: 9,286

News: 10,185

Newspaper: 3,975

Legal Cases: 2,889

Legislation: 605

Guideline: 1,931

Practice Guideline: 1,084

Government Publications: 190

なお、雑誌名の取り方がMedline(NLM)とBioethicsline(ケネディ記念倫理図書館)で異なった時期があったせいか、誌名が変化したCMAJとCan Med Assoc J、そしてBMJとBr Med Jとで一部であるが重複レコードがあった。これらについては、重複分データを除外した。なお、LancetとLancet North Am Ed、は別々の雑誌として扱った。出版タイプにもとづいた記事別の掲載論文数ランキングは、1965年から2002年までの期間で検索されたものを対象に作成した。

4. 結果と考察

1) PubMedに占めるサブセットBioethics文献のシェアとその年次変化

1965年から2001年までのサブセットBioethicsで特定できた生命科学文献の年次変化とPubMedに占めるシェア(構成百分比)を、PubMed掲載論文数とともに作表した(表1)。これをみると、1965年には、わずか0.2%でしかなかった比率が、2001年には2.2%を占めるまで成長している様子が示されている。また、1973年に、1%のシェアに達し、1992年には2%台に増大していた。1973年は、ケネディ記念倫理研究所図書館で倫理関係文献の収集と組織化が開始された年である。図1に、PubMedとBioethics(サブセット)文献数の増加傾向を示した。PubMed文献の増加よりも、Bioethics文献の上昇傾向が顕著であることがわかる。生命倫理は、医学界はもとより、広く検討されている主題であり、1990年代後半から、文献数の伸びがみられる。

2) 生命倫理文献の多様化：研究論文の比率変化

Bioethics文献の記事が多様化していることを示すために、記事の中心になっているJournal Article(出版タイプ)の比率の変化に注目した(図2)。図をみると、Bioethics文献の上昇とともに、生命倫理関連記事が、研究論文(Journal Article)以外の記事で多く占められるようになっていた。1987年に研究論文のシェアは80%になり、その後60%台にシェアを減らしている。初期は研究論文を中心に収録されていたが、収録記事が多様化していることがわかる。生命倫理をめぐり、レビュー、論説、レター、ニュースなど幅広く言及されるよ

付表：出版タイプ別調査対象文献数(PubMedサブセット: Bioethics)													
Year	PubMed	Bioethics	Journal Article	Review	Letter	Editorial	News	Newspaper	Legal cases	Legislation	Guideline	Practice Guideline	Government Pub
1965	99929	234	231	2									
1966	174518	552	545	6									
1967	186539	751	733	13									
1968	203870	1090	1063	25									
1969	211159	1070	1044	25									
1970	213268	1203	1173	27									
1971	218662	1264	1238	24	1								
1972	222871	1366	1331	28	2								
1973	226657	2231	2108	29									
1974	230036	2427	2265	40	3								
1975	244229	2672	2452	49	2	18							
1976	248884	2590	2350	14	36	46							
1977	255528	3141	2611	31	144	103	2						
1978	265259	3668	3043	34	177	138	34						
1979	273991	3621	2967	47	251	129	70						
1980	272321	3614	3095	28	199	125	58						
1981	274281	3264	2863	38	118	104	46						
1982	285172	3283	2905	47	180	98	98						
1983	299010	3612	3037	59	225	125	291						
1984	307895	3789	3172	51	213	137	340						
1985	319636	4091	3455	68	240	127	297						
1986	332180	4361	3639	77	296	136	232						
1987	349577	4700	3637	164	355	167	260						
1988	367174	5373	4000	245	447	218	317						
1989	382612	6175	4488	397	579	271	349						
1990	389973	6656	4901	431	570	346	354						
1991	391367	7493	5274	435	688	420	514						
1992	394002	8109	5634	486	906	475	429						
1993	402228	8730	6111	527	962	499	538						
1994	411740	9164	6318	715	941	593	554						
1995	422616	9059	5940	792	995	528	593						
1996	431991	9608	6292	1039	971	543	570						
1997	436033	10478	6609	1217	1000	634	714						
1998	453653	10498	6754	1227	923	579	710						
1999	468120	10557	6672	1242	954	646	741						
2000	504014	10723	6821	1245	1010	709	730						
2001	511322	11333	6951	1328	1097	809	788						
2002	482580	8306	5309	826	798	558	161						
Total	12164897	190856	139031	13078	15280	9286	10185	3975	2889	605	1931	1084	190

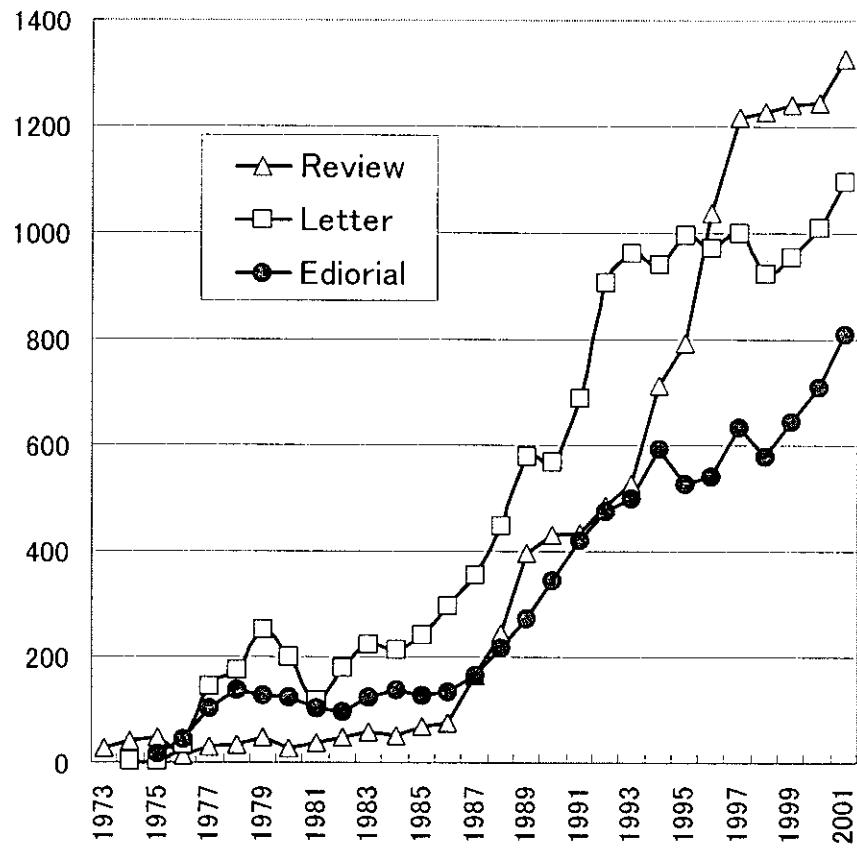


図3 レビュー、レター、論説記事の文献数変化

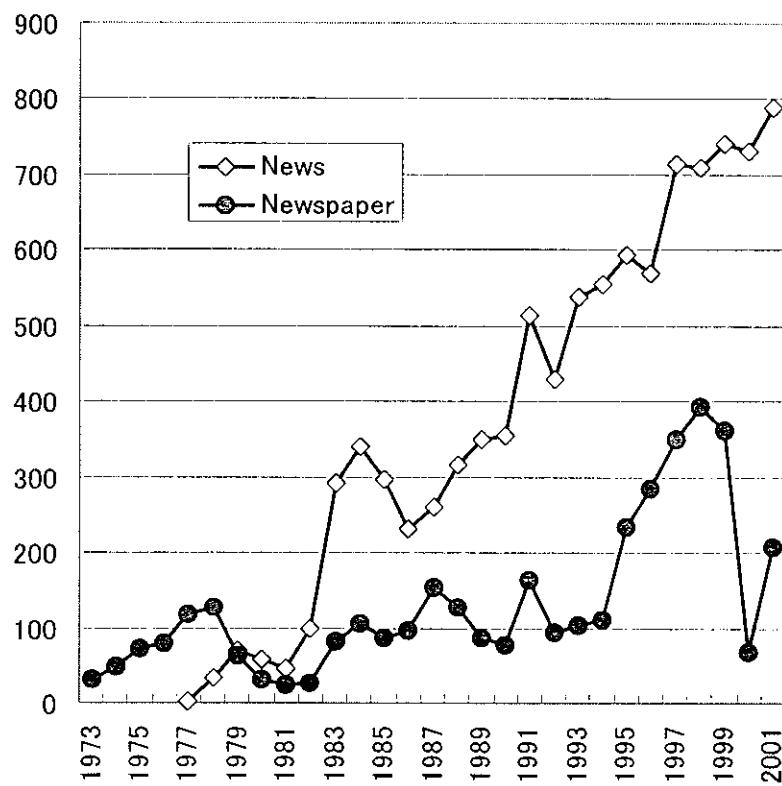


図4 ニュース記事、新聞記事の文献数変化

うになった。

3) 出版タイプごとの年次文献数変化：レビュー、レター、論説

レビュー(Review)、レター(Letter)、論説(Editorial)の3記事について、1973年のケネディ記念倫理研究所図書館の設立以降を中心に、記事数による年次変化を示した(図3)。1980年代の後半から論説記事が増加し、1990年代後半からはレビュー論文が顕著に増大している様子がわかる。生命倫理をテーマに、近年問題の定式化や系統化がなされている。

4) 出版タイプごとの年次文献数変化：ニュース、新聞記事

雑誌に掲載されたニュース記事(News)と新聞から収録された記事(Newspaper)について、その記事数による年次変化を示した(図4)。新聞記事からのニュースは、収録される記事数の変化が激しい。これは、新聞記事の特徴であろう。ニュース記事は、1982年に98件になり、翌年の1983年には3倍の291件へとさらに上昇した。総合医学雑誌や総合科学雑誌を中心に、生命倫理関連のニュース記事が掲載されたことを示している。

5) 研究論文(Journal Article)掲載主要誌の10年ごと変化：出版タイプ別の主要掲載論文誌の識別

サブセット Bioethics に占める研究論文(Journal Article)の比率は、1995年から2002年までを対象にすると72.8%になった。Bioethics 文献のもっとも重要な記事であり、研究論文を掲載している中心的な

雑誌を特定してみることにした。そこで、1970/1971年(表2)、1980/1981年(表3)、1990/1991年(表4)、2000/2001(表5)の2年間分を10年ごとに分析対象として、掲載論文数にもとづくランキングリストを作成した。1970/1971年の上位5誌は、4誌が総合医学雑誌であり、1誌(5位)が総合科学雑誌である。1980/1981年の上位5誌は、生命倫理の代表的な研究センターの機関誌 Hastings Center Report がトップを占め、3位に生命倫理の専門誌が占めていた。BMJとLancetは、1970/1971年と同様に上位に入っていた。1990/1991年の上位誌は、1位に総合医学雑誌の JAMA、2位に Hastings Center Report、3位に Journal of Clinical Ethics 誌となっていた。なお、看護の専門誌である Nursing Times が5位になり、その位置をあげてきた。もっとも新しい2000/2001年のランキングリストをみると、Nursing Times が1位になり、Journal of Medical Ethics と JAMA が147件で2位になっていた。4位は2001年に創刊されたオンラインジャーナルである American Journal of Bioethics が入っていた。

これらのリストから、当初は総合医学雑誌が中心的な役割をはたしており、その後徐々に専門誌が形成され、医学分野だけでなく、看護領域でも論じられてきた変化がわかる。そこで、BMJ、JAMA、Lancet、New England Journal of Medicine、Annals of Internal Medicine の5誌については、別途10年ごとの変化を図にした(図5)。これを見ると、BMJやLancet誌などイギリス誌のほうが、多くの記事を収載していた。JAMAは1990年代以降、このテーマでの記事を積極的に掲載していた。New England

表2 Journal Article文献数ランキング: 1970-1971 Bioethics

Rank	Name of Journal	Number of Papers
1	Lancet	101
2	Br Med J	72
3	N Engl J Med	69
4	Med J Aust	58
5	Ann NY Acad Sci	54
6	Clin Obstet Gynecol	50
7	Lakartidningen	46
8	Cesk Gynekol	45
9	Am Psychol	41
10	JAMA	38
11	Can Med Assoc J	33
12	Am J Public Health	28
13	Am J Psychiatry	26
14	Science	23
15	Am J Obstet Gynecol	22
16	Semin Psychiatry	22
17	Ann Intern Med	20
18	Am J Orthopsychiatry	19
19	Birth Defects Orig Artic Ser	19
20	Nature	18
21	Obstet Gynecol	18
22	Presse Med	18
23	Public Health	17
24	Dtsch Med Wochenschr	16
25	Med Klin	16
26	Munch Med Wochenschr	15
27	Stud Gen(Berl)	15
28	Tidsskr Nor Laegeforen	15
29	J Biosoc Sci	13
30	Mod Treat	13
31	Ment Hyg	12
32	N Z Med J	12
33	Ned Tijdschr Geneesk	12
34	Nippon Ishikai Zasshi	12
35	Proc R Soc Med	12
36	Am J Nurs	11
37	Fam Plann Perspect	11
38	Anesthesiology	10
39	NY State J Med	10
Total		1062
Upper 10		

表3 Journal Article文献数ランキング(1980-1981 Bioethics)

Rank	Name of Journal	Number of Papers
1	Hastings Cent Rep	136
2	BMJ	95
3	J Med Ethics	82
4	IRB	74
5	Lancet	62
6	J Med Philos	57
7	Soc Sci Med	57
8	Fed Regist	55
9	JAMA	55
10	Hosp Prog	54
11	Nurs Times	52
12	Nurs Mirror	50
13	New Sci	46
14	Health Law Can	43
15	Conn Med	40
16	Hosp Community Psychiatry	40
17	Congr Rec	38
18	Nurs Law Ethics	38
19	Bioethics Q	34
20	Am J Psychiatry	33
21	Sygeplejersken	33
22	Can Med Assoc J	32
23	Am J Nurs	31
24	Am Med News	31
25	Bull Am Acad Psychiatry Law	31
26	J Dent Res	31
27	N Engl J Med	31
28	Science	30
29	Hospitals	29
30	Man Med	29
31	Ob Gyn News	29
32	Lakartidningen	25
33	Med J Aust	25
34	Superv Nurs	25
35	Fam Plann Perspect	24
36	Aust Nurses J	23
37	Health Law Vigil	23
38	Int J Law Psychiatry	23
39	Ethics Sci Med	22
40	Linacre Q	22
41	MMW Munch Med Wochenschr	22
42	Tidschr Ziekenverpl	22
43	Nature	21
44	Australas Nurses J	20
45	Fortschr Med	20
46	Med World News	20
47	J Health Polit Policy Law	19
48	Krankenpflege(Frankf)	19
49	Medicoleg News	19
50	RN	19
51	Bull Schweiz Akad Med Wiss	18
52	Chirurg	18
53	Dtsch Med Wochenschr	18
54	Nurs Outlook	18
55	Vardfacket	18
56	Am J Orthopsychiatry	17
57	Krankenpf Soins Infirm	17
58	Leg Aspects Med Pract	17
59	Leg Med Q	17
60	Nord Med	17
61	Ann N Y Acad Sci	16
62	Dimens Health Serv	16
63	Milbank Mem Fund Q Health Soc	16
64	Regan Rep Nurs Law	16
65	Top Health Rec Manage	16
66	Am J Public Health	15
67	Geburtshilfe Frauenheilkd	15
68	Hum Life Rev	15
69	J Fam Pract	15
70	Ment Retard	15
71	Metamedicine	15
72	Mod Healthc	15
73	S Afr Med J	15
Total		2273
Upper 15		

表4 Journal Article文献数ランキング: 1990-1991 Bioethics

Rank	Name of Journal	Number of Papers
1	JAMA	167
2	Hastings Cent Rep	165
3	J Clin Ethics	150
4	BMJ	132
5	Nurs Times	128
6	Transplant Proc	128
7	J Med Ethics	107
8	Nurs Stand	102
9	CMAJ	100
10	Lakartidningen	99
11	NLN Publ	93
12	Lancet	83
13	Sygeplejersken	81
14	Health Prog	76
15	HEC Forum	70
16	Law Med Health Care	69
17	Soc Sci Med	67
18	J Med Philos	65
19	J Clin Epidemiol	62
20	Ned Tijdschr Geneeskfd	56
21	Med Law	55
22	New Sci	52
23	Am J Public Health	49
24	N Engl J Med	49
25	Diskussionsforum Med Ethik	47
26	Med J Aust	47
27	Tex Med	45
28	Bioethics	42
29	Bull Med Ethics	42
30	Tidsskr Nor Laegeforen	42
31	Am Psychol	41
32	Am Nurse	40
33	Second Opin	40
34	J Am Geriatr Soc	39
35	J Adv Nurs	38
36	Hosp Community Psychiatry	36
37	Hum Gene Ther	35
38	Milbank Q	35
39	Mod Healthc	35
40	Hospitals	34
41	Issues Reprod Genet Eng	34
42	Theor Med	34
43	Arch Intern Med	33
44	IRB	32
45	Med Econ	32
46	Ugeskr Laeger	32
47	Issues Law Med	31
48	Linacre Q	31
49	Health Serv J	30
50	J Law Ethics Dent	30
51	Conn Med	29
52	Fed Regist	29
53	Hosp Ethics	29
54	Acad Med	28
55	AORN J	28
56	Dtsch Tierarztl Wochenschr	28
57	J Am Vet Med Assoc	28
58	J Prof Nurs	28
59	Bull Am Acad Psychiatry Law	27
60	Krankenpfl Soins Infirm	27
61	Caring	26
62	Hosp Patient Relat Rep	26
63	Int J Health Serv	26
64	Int J Law Psychiatry	26
65	Med Staff Couns	26
66	Nursing	26
67	Ohio Med	26
68	Internist	25
Total		3650

Upper 25

表5 Journal Article文献数ランキング:2000~2001Bioethics

Rank	Name of Journal	Number of Papers
1	Nurs Times	168
2	J Med Ethics	147
3	JAMA	147
4	Am J Bioeth	132
5	BMJ	132
6	Lakartidningen	128
7	Lancet	126
8	J Law Med Ethics	96
9	Hastings Cent Rep	95
10	J Clin Ethics	95
11	Sci Eng Ethics	92
12	Nurs Stand	88
13	J Adv Nurs	84
14	Med Law	84
15	Hum Res Rep	80
16	Transplant Proc	79
17	Soc Sci Med	78
18	Acad Med	75
19	Camb Q Healthc Ethics	69
20	J Med Philos	69
21	Tidsskr Nor Laegeforen	64
22	HEC Forum	63
23	Br J Nurs	61
24	Med Econ	60
25	West J Med	60
26	Ann Intern Med	57
27	Health Prog	56
28	J Am Geriatr Soc	56
29	Bioethics	54
30	N Engl J Med	54
31	Health Serv J	53
32	Kennedy Inst Ethics J	52
33	Med J Aust	52
34	Health Aff(Millwood)	51
35	J Am Acad Psychiatry Law	51
36	Health Care Anal	50
37	Am J Public Health	49
38	CMAJ	49
39	Health Financ Manage	48
40	Manag Care	47
41	Mod Healthc	47
42	Manag Care Interface	46
43	Psychiatr Serv	44
44	Theor Med Bioeth	44
45	Nature	43
46	J AHIMA	42
47	Law Hum Genome Rev	42
48	Am Psychol	41
49	Hum Reprod	41
50	Pediatrics	39
51	Arch Intern Med	38
52	Christ Bioeth	38
53	J Am Vet Med Assoc	37
54	N Z Med J	37
55	Psychol Rep	37
56	Am J Nurs	36
57	Nurs Law Regan Rep	36
58	Bull Med Ethics	35
59	Krankenpfl Soins Infirm	35
60	Can Vet J	34
61	J Christ Nurs	34
62	Nurs Ethics	34
63	Trustee	34
64	Ugeskr Laeger	33
65	Behav Sci Law	32
66	Health Econ	32
67	Child Abuse Negl	31
68	J Health Polit Policy Law	31
69	JONAS Healthc Law Ethics Regul	31
70	Med Health Care Philos	31
71	Science	31
72	Soins	31
73	Acta Psychiatr Scand (with Supple)	30
74	Int J Technol Assess Health Care	30
75	Z Arztl Fortbild Qualitassich	30
Total		4418

Upper 30

JAMA は 1990 年代以降、このテーマでの記事を積極的に掲載していた。New England Journal of Medicine は、1970/1971 年には、JAMA 以上に生命倫理の研究論文を掲載していたが、その後は掲載数が上昇しておらず、Annals of Internal Medicine 誌にも抜かれていた。

6) 出版タイプ別の主要掲載論文誌の識別：レビュー論文

出版タイプを検索キーにして記事別の掲載論文数ランキングを作成すると、記事の種類により中心誌に違いが存在する。レビュー記事について、1 位 BMJ、2 位 Journal of Advanced Nursing、3 位 Social Science of Medicine、4 位 Nursing Ethics、5 位 Medical Law などが、上位 5 誌を占めていた（表 6）。BMJ 誌の掲載数は、JAMA の 2 倍であり、生命倫理についてのレビュー論文を活発に掲載していた。また、上位 5 誌中の 2 誌は看護学雑誌であることも注目できる。

7) 出版タイプ別の主要掲載論文誌の識別：論説記事

生命倫理の領域において、論説を積極的に掲載している雑誌を特定すると、1 位 BMJ、2 位 Lancet、3 位 JAMA、4 位 Nature、5 位 CMAJ という順位であった（表 7）。総合医学雑誌が 4 誌入っており、これらの雑誌が意見記事を発表していた。そのなかで、レビュー論文掲載数トップの BMJ 誌が、論説記事でもトップであった。BMJ 誌は、497 件と突出した件数を示しており、生命倫理では最も重要な総合医学雑誌であることがわかる。レビューと論説という、重要な記事で、BMJ 誌はリードしていることになる。

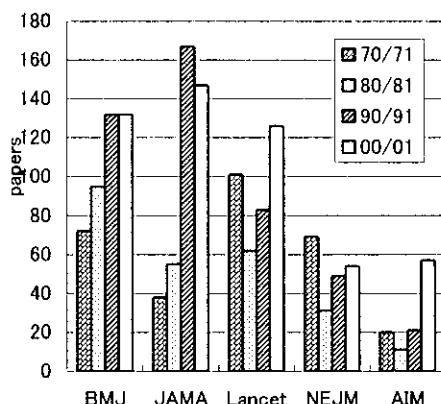


図5 Bioethics に含まれる5総合医学雑誌からの Journal Article 記事数変化

8) 出版タイプ別の主要掲載論文誌の識別：ニュース記事

ニュース記事は、総合誌だけでなく、新聞が重要な情報源として出現している（表 8）。1 位 Nature、2 位 New York Times、3 位 Science、4 位 BMJ、5 位 Modern Healthcare、6 位 Lancet と、これらは 500 論文数以上を掲載していた。とくに、上位 3 誌は、1000 件を超えていた。新聞では、Washington Post が 12 位（178 件）であった。新聞は主要誌に限定されているが New York Times の記事数は傑出している。総合医学雑誌では、BMJ 誌がここでも上位を占めた。

ニュース記事は、総合医学雑誌よりも、総合科学雑誌が多くの記事を掲載していることが注目できる。生命倫理という主題であるので、展望記事や論説は医学総合誌に掲載され、たんなるお知らせ記事は総合科学雑誌や新聞に掲載されているといえる。

9) 出版タイプ別の主要掲載論文誌の識別：判例記事

判例記事（Legal cases）は、法律専門誌や判例集に掲載されており、これらの資料

に、生命倫理に関する判例記事が見つけられる(表9)。実際の裁判になる事例もあり、生命倫理の主題の広がりを示すものである。

参考文献

- 1) 山崎茂明. 文献スクリーニングの価値: ケネディ記念倫理研究所図書館の活動. 薬学図書館 2002; 47(1): 1-5.
- 2) 山崎茂明. 問題解決型データベース BIOETHICSLINE の意義. Journal of Library and Information Science 2001; 15: 31-38.

表6 Bioethicsに掲載されたレビュー論文数ランキング

Rank	Name of Journal	Number of Papers
1	BMJ	167
2	J Adv Nurs	162
3	Soc Sci Med	152
4	Nurs Ethics	98
5	Med Law	95
6	Am J Law Med	89
7	JAMA	88
8	Hastings Cent Rep	87
9	J Med Ethics	81
10	J Leg Med	78
11	J Med Philos	75
12	Ann Intern Med	72
13	J Clin Ethics	72
14	Ann N Y Acad Sci	70
15	J Law Med Ethics	68
16	Duodecim	67
17	Lakartidningen	64
18	Nurs Clin North Am	64
19	Theor Med	63
20	CMAJ	62
21	Hum Reprod	59
22	Br J Nurs	57
23	Lancet	57
24	Tidsskr Nor Laegeforen	56
25	Camb Q Healthc Ethics	55
26	Ned Tijdschr Geneeskde	55
27	Theor Med Bioeth	55
28	Am J Public Health	54
29	Clin Geriatr Med	53
30	J Contemp Health Law Policy	52
31	J Health Polit Policy Law	52
32	Harefuah	49
33	Curr Opin Obstet Gynecol	48
34	Health Policy	48
35	J Am Vet Med Assoc	48
36	ANS Adv Nurs Sci	45
37	Int J Health Serv	45
38	Transplant Proc	43
39	Emerg Med Clin North Am	42
40	Issues Law Med	42
41	Med Health Care Philos	42
42	West J Med	42
43	Bull Med Bull	41
44	Crit Care Clin	41
45	Am Fam Physician	40
46	Int J Technol Assess Health Care	40
47	Prim Care	40
48	Med Klin	39
49	Bull Am Acad Psychiatry Law	38
50	Can J Psychiatry	38
51	Aust N Z J Psychiatry	37
52	Crit Care Med	37
53	J Am Geriatr Soc	37
54	Nippon Rinsho	37
55	Nurs Stand	37
56	Clin Obstet Gynecol	36
57	Clin Perinatol	36
58	Semin Oncol Nurs	35
59	Am J Psychiatry	34
60	Health Care Anal	34
61	Psychiatr Clin North Am	34
62	Rev Sci Tech	34
63	Annu Rev Public Health	32
64	Int J Law Psychiatry	32
65	Health Econ	31
66	Acad Med	30
Total		3743

Upper 30

表7 Bioethicsに掲載された論説記事論文数ランキング

Rank	Name of Journal	Number of Papers
1	BMJ	497
2	Lancet	321
3	JAMA	274
4	Nature	203
5	CMAJ	177
6	N Engl J Med	160
7	J Med Ethics	157
8	Med J Aust	135
9	J Clin Ethics	98
10	S Afr Med J	91
11	New Sci	89
12	Ann Intern Med	78
13	Science	78
14	Crit Care Med	71
15	Am J Public Health	69
16	NY Times	62
17	J Am Geriatr Soc	60
18	Br J Nurs	57
19	J R Soc Med	50
20	West J Med	50
21	Arch Intern Med	49
22	Plast Reconstr Surg	49
23	Nurs Times	48
24	Chest	46
25	Fertil Steril	44
26	Ann Emerg Med	43
27	J Gen Intern Med	43
28	Tidsskr Nor Laegeforen	43
29	Med Clin(Barc)	39
30	Conn Med	36
31	Duodecim	35
32	Harefuah	35
33	Postgrad Med	35
34	Br J Hosp Med	34
35	Can Fam Physician	34
36	Ugeskr Laeger	34
37	J Palliat Care	32
38	Am Fam Physician	31
39	Del Med J	31
40	Hum Gene Ther	31
41	South Med J	31
42	Am J Psychiatry	30
43	J Am Coll Cardiol	30
Total		3640
Upper 30		

表8 Bioethicsに掲載されたニュース記事論文数ランキング

Rank	Name of Journal	Number of Papers
1	Nature	1374
2	NY Times	1349
3	Science	1108
4	BMJ	989
5	Mod Healthc	711
6	Lancet	578
7	New Sci	353
8	JAMA	320
9	Lancet North Am Ed	235
10	Nurs Times	188
11	Hastings Cent Rep	186
12	Washington Post	178
13	Nat Med	145
14	Med World News	135
15	J Natl Cancer Inst	110
16	Can Med Assoc J	97
17	Time	94
18	US News World Rep	94
19	J Am Vet Med Assoc	88
20	Nat' Biotechnol	76
21	Nurs Stand	72
22	Vet Rec	72
23	Hosp Health Netw	70
24	Sci News	68
25	Ob Gyn News	60
26	Newsweek	59
27	Am Med News	47
28	Bull Med Ethics	43
29	S Afr Med J	43
30	Hum Res Rep	38
31	Am J Health Syst Pharm	32
Total		9012
Upper 30		9012

表9 Bioethicsに掲載された判例記事論文数ランキング

Rank	Name of Journal	Number of Papers
1	Fed Suppl	274
2	Fed Report	184
3	Atl Report	148
4	Hosp Law News!	120
5	North East Rep Second Ser	111
6	Issues Law Med	107
7	J Law Med Ethics	100
8	Regan Rep Nurs Law	94
9	AIDS Policy Law	73
10	Wests Calif Report	62
11	Wests North West Rep	55
12	Mod Healthc	52
13	J Healthc Risk Manag	48
14	Nurs Law Regan Rep	47
15	J Am Vet Med Assoc	43
16	Br J Nurs	34
17	J Contemp Health Law Policy	32
18	All Engl Law Rep	31
19	Dom Law Rep	31
20	J Am Acad Psychiatry Law	31
21	U S Rep U S Supreme Court	31
22	Dtsch Med Wochenschr	27
23	Am J Law Med	26
24	Health Matrix Clevel	26
25	South East Report Second Se	26
26	Med Econ	25
27	Health Care Law Mon	21
28	Spec Law Dig Health Care Law	20
29	Healthspan	19
30	Health Law J	18
31	J Health Hosp Law	18
32	Wests Supreme Court Report	18
33	J Health Law	17
34	J Med Ethics	17
35	Hastings Cent Rep	16
36	Law Med Health Care	15
Total		2017
Upper 15		

厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）
分担研究報告書

5. 医薬品適正使用に向けての国際比較

分担研究者	森川 肇	国立医薬品食品衛生研究所化学物質情報部
研究協力者	小野寺理恵	国立医薬品食品衛生研究所化学物質情報部
研究協力者	山本美智子	国立医薬品食品衛生研究所化学物質情報部

研究要旨

日本は、医薬品の使用状況において、欧米と処方傾向に相違があるといわれている。欧米では、大規模臨床研究による疫学的な根拠に基づく"Evidence-Based Medicine (EBM)"によるガイドライン等が整備されてきている。一方、日本では、やっと EBM が認識されるようになってきたが、それに則ったガイドラインの整備等は遅れているのが現状である。そこで、我々は、WHO ATC/DDD システムを用いて、1 日人口千人当たりの薬剤服用患者数を算出し、日本とノルウェー、米国における呼吸器、消化器、循環器領域の医薬品の使用状況を調査比較し、それが適正使用かどうかを検討した。また、これらの領域において、その使用状況に影響を与えている、各国の疾病状況、治療ガイドライン、市販後の大規模臨床試験の結果、その他医療を取り巻く状況等について、その関連性を検討した。

A. 研究目的

患者への治療の根拠として、狭い経験やその分野の権威の意見によって医学上の決定や判断を行う "Opinion-Based Medicine" から、欧米から広まった大規模臨床研究による疫学的な根拠に基づく "Evidence-Based Medicine (EBM)" の考え方の重要性が日本でも認識されるようになりつつある。しかし、経験的な治療もまだ多く、日本でしか認可されていない薬、いわゆるローカルニュードラッグや日本の突出した医薬品の使用がたびたび問題になっている。また、世界的に新薬が次々に開発され商品化される陰で、エビデンスがあっても保険薬価が安い古い薬剤はあまり使われなくなっている傾向がある。

医薬品の使用実態に関する調査研究は、適正使用に向けての第一歩と思われる。日本は、欧

米に比べ、医薬品全体の使用が多く、副作用、相互作用、耐性菌等の問題がたびたび指摘されてきた。しかし、その使用の実態について、正確な比較調査は行われていないのが現状である。

WHO の "The Rational use of Drug"、医薬品適正使用という概念が 1985 年から導入され、「品質」「有用性」「安全性」に加え、「適切な情報」「コスト（費用）」も求められるようになった。国内において、1980 年代、年間約 15 兆円だった国民医療費は、いまや 30 兆円に倍増し¹⁾、医療費抑制が叫ばれている。これまで保険は出来高払い制で、薬の過剰投薬を助長してきたとも言われている。

今回、日本における医薬品の使用状況を明らかにするために、調査研究の手法として、World Health Organization (WHO) による Anatomical

Therapeutic Chemical (ATC)/ Defined Daily Dose (DDD) システムを用いた。国内で汎用されている呼吸器用剤・消化器用剤・循環器用剤を調査対象とし、ノルウェー、米国等と比較検討した。また、これらの領域において、その使用状況に影響を与えており、各国の疾病状況、治療ガイドライン、市販後の臨床試験、その他、医療を取り巻く状況等について、その関連性を検討した。

B. 研究方法

薬剤の使用状況の調査にあたり、WHO の ATC/DDD システム²⁾を用いた。このシステムは、ノルウェーにある WHO 医薬品統計共同研究センター (WHO Collaborating Centre for Drug Statistics Methodology) が推進している国際的な医薬品の使用に関する研究の手法である。

国際比較の対象として、ノルウェーの ATC/DDD システムを用いたデータが Drug Consumption in Norway³⁾ に公表されているためノルウェーを選んだ。ノルウェーでは各薬剤ごとの使用量、服用患者数の統計がこの 30 年間公表されており、これをもとにした解析が可能である。しかし、日本における薬剤の使用量は厚生労働省から「薬事工業生産動態統計」⁴⁾ が出されているが、昭和 50 年に選定された特掲医薬品のみで、その後の新薬についての生産額のデータはない。そこで、各薬剤の推定販売

高を売上が多い順に記載している薬事ハンドブック⁵⁾のデータを用いて算出した。ただし、一部、薬事ハンドブックなく、「薬事工業生産動態統計」に掲載のある薬剤についてはそれを用いた。また米国は、ノルウェーのような使用データは出していないため、NDC Health の報告による RxList の処方箋枚数順位⁶⁾や使用状況の報告書内容から推定した。

ATC/DDD システムでは、ATC で各薬剤に薬効分類コードが付けられ、DDD で薬剤ごとに一日当たりの用量が設定されている。ATC は、14 の Anatomical main group (第一のレベル) に分かれ、さらに therapeutic subgroup (第二のレベル)、Pharmacological subgroup (第三のレベル)、chemical subgroup (第四のレベル)、Chemical substance (第五のレベル) の 5 段階構造になっている。今回調査対象とした医薬品をこの ATC code に従い分類した。さらに、各薬剤について、1 日当たり 1000 人に使用される DDD の数、つまり 1 日当たり 1000 人中の患者数を、下記の式を用いて算出した。例えば、10 DDD/1000 人/日の意味は、一日当たり総人口の 1% が当該の薬剤で治療が行われたことを表す。しかし、国内の各薬剤での一日の用量は、この WHO の設定用量に比べ少ないものが多く見られたため、それらの薬剤については最大用量を用いた。

$$\text{1 日 1000 人あたりの患者数} = \frac{\text{(年間売上高} / \text{一日当たりの用量の薬価}) \times 1000 \text{ (人)}}{365 \text{ (日)} \times \text{人口 (人)}}$$

今回、呼吸器用剤・消化器用剤・循環器用剤を調査対象とし、ノルウェー、米国等と比較検討した。また、これらの領域において、その使用状況の背景となる疾病および社会状況、大規模臨床試験の結果、治療ガイドライン等から、使用状況の違いを比較検討した。

C. 結果

1. 呼吸器用剤

戦前の呼吸器疾患は、肺結核や肺炎が死亡率の上位に位置していたが、戦後、抗生素質の普及によりそれらの死亡率は減少し、代わって、産業の発達により大気汚染が進み、慢性肺気腫、気管支喘息、慢性気管支炎、肺癌が増加し代表